伊達市民憲章作文コンクール

テーマ「きずきましょう　学ぶ心とゆたかな文化を」

小学生の部 200 点、中学生の部 278 点の応募があり、11 月の審査会で 22 点の受賞作品が決定しました。選ばれた作品はどれも素晴らしく、伊達市をより良くするために自分にできることを一生懸命考えている作品が多くありました。

その中から、小学生の部は伊達東小学校６年生の大橋亜蘭さん、中学生の部は桃陵中学校２年生の田中千春さんの作品が最優秀賞に選ばれました。各部の最優秀賞に輝いた作品をご紹介します。

12 月 13 日㊏の表彰式の様子▶

問 総務課総務係　☎ 575-1239

伊達市民憲章（抜粋）

一 まもりましょう
ふるさとの自然と歴史を

一 つなぎましょう
世代の絆とたしかな信頼を

一 そだてましょう
支えあいと思いやりの気持ちを

一 きずきましょう
学ぶ心とゆたかな文化を

一 めざしましょう
すこやかで活力のあるまちを

▼受賞者一覧（敬称略）

最優秀賞	
大橋（おおはし） 亜蘭（あらん）	伊達東小 6年
田中（たなか） 千春（ちはる）	桃陵中 2年
優秀賞	
池田（いけだ） 幸永（こうえい）	上保原小 5年
大河内（おおこうち） 咲希（さき）	月舘学園小 6年
菅野（かんの） 隼平（しゅんぺい）	霊山中 2年
大河内（おおこうち） 瑞希（みずき）	月舘学園中 2年

優良賞	
小山（こやま） 真桜（まお）	伊達小 6年
長沼（ながぬま） 斗夢（とむ）	保原小 6年
引地（ひきち） 駿輔（しゅんすけ）	掛田小 6年
八島（やしま） 優空（ゆあ）	小国小 5年
渡邉（わたなべ） 裕乃（ひろの）	伊達中 1年
橘（たちばな） 沙紀（さき）	梁川中 3年
渡邊（わたなべ） 友惺（ゆうせい）	松陽中 1年
佐久間（さくま） 心凛（ここり）	桃陵中 3年

佳作	
石高（いしたか） 結梨（ゆいり）	伊達小 5年
鈴木（すずき） 美千翔（みちか）	梁川小 6年
丸山（まるやま） 颯志朗（そうしろう）	掛田小 5年
星野（ほしの） 大河（たいが）	小国小 6年
芳賀（はが） 彩風（あやか）	伊達中 3年
幕田（まくた） 璃央那（りおな）	梁川中 1年
高田（たかだ） 愛依（あい）	霊山中 1年
菅野（かんの） 愛（あい）	霊山中 3年

▲受賞作品をウェブで読む

小学生の部
最優秀賞

伊達東小学校６年
大橋 亜蘭 さん

「地域のごみ拾い」

ぼくは、お手伝いや散歩をしているときに、バス停やごみ捨て場に落ちているごみが気になっていました。ある日、思い切ってごみを拾ってみると、地域の人に「ありがとう。」と言ってもらえて、とてもうれしくなりました。そのときから、ぼくは地域をきれいにすることをもっと続けたいと思うようになりました。

家の近くにはバス停があります。そこを通るたびに、空き缶や袋などが落ちているのをよく見かけました。「どうしてこんなにごみが多いのだろう。」と思いながら観察してみると、バスを待っている人がポイ捨てをしていたり、バスから降りた人がそのまま置いていったりする場面を見かけました。ぼくは、なんとかしなければと思い、家族に相談しました。家族と話し合った結果、散歩するときに一緒にごみを拾うことにしました。

最初はぼくと家族だけでごみを拾っていました。けれど、その様子を見ていた地域の人も自分もやってみようと思ってくれたのか、少しずつ協力してくれるようになりました。そして不思議なことに、ごみを捨てていく人もだんだん少なくなってきました。ぼくがごみを拾っているときに、地域に住んでいるおばあさんが声をかけてくれました。「いつもありがとう。」その言葉を聞いたとき、心が温かくなり、とてもうれしくなりました。散歩が前よりも楽しくなり、続けて良かったと思いました。

また、お手伝いでごみを捨てに行くときにも、ごみ捨て場の周りにごみが落ちているのをよく見かけました。ある日、地域に住むおじいさんに出会いました。そのおじいさんは、ほうきと袋を持っていて、ゴミ捨て場の周りを掃除していました。気になって理由を聞くと、おじいさんはこう教えてくれました。

「ごみを捨てに来た人が扉をきちんと閉めないと、動物が中に入って荒らしていくのだよ。」

ぼくは、地域をきれいにするために、掃除をしてくれている人がいることを知り、とても心強く感じました。

ごみを拾ったり、地域の人から話を聞いたりして、ぼくは大切なことに気付きました。それは、自分が少し行動するだけで、地域の人が喜んでくれたり、一緒に協力してくれたりすることです。そして、ごみをなくすためには、自分一人ではなく、みんなが気を付けることが大切だと分かりました。

これからも散歩のときには、ごみ拾いを続けたいです。そして、地域をきれいにすることで、もっとたくさんの人に喜んでもらえるようにしたいです。小さな行動でも、続けていけば大きな変化。そして、それがすてきな文化になっていくと信じています。ぼくはこれからもごみを拾い続けて、気持ちの良い地域づくりの文化をつくっていきたいです。

中学生の部
最優秀賞

桃陵中学校２年
田中 千春 さん

「音楽を通して感じたこと」

私は桃陵中学校の吹奏楽部に所属しています。現在、吹奏楽部の部員は二十人弱しかいません。しかし、吹奏楽コンクールをはじめ、校内行事における演奏や、文化祭での発表など、演奏を行う機会はたくさんあり、日々一生懸命練習に取り組んでいます。その中の活動の一つに、毎年五月に行われる「伊達市吹奏楽きらめき事業」があります。これは、伊達市の吹奏楽部に所属している小中学生と東京藝術大学の方との合同演奏会で、今年で第十回目を迎えました。音楽を通しての復興支援を目的としており、伊達市民が震災に負けず、音楽を通して笑顔になってほしいという思いが込められています。

私がこの演奏会に参加するのは二回目です。少人数で活動している私達にとって、大人数で演奏できるこの演奏会はビッグイベントの一つです。演奏会当日はもちろん、それまでの練習会にも力を入れて取り組みました。

この事業を通して、私は改めて演奏する楽しさに気づきました。普段は部員が少ないので、パートの人数は一人から多くても二人ですが、この演奏会は全体で約二百人という大人数での演奏です。今までは心細くて堂々と演奏できない自分がいましたが、分からないことや不安なことを多くの人に聞き、当日は自信をもって演奏することができました。何より一番楽しさを感じられたのは、演奏中に皆の音がぴったりと合い、練習の成果を発揮できた瞬間です。こんなに多くの人々の音が、人々の心がつながったのだと感じられました。

また、この演奏会で私は音楽の力を大きく感じました。演奏会が終わった後、聴きに来てくれた友達は、「人が多く、音が大きくて素晴らしかった。」と言ってくれました。大勢の観客の盛大な拍手もありました。指揮者の先生が「皆で演奏できてよかった。」と言ってくださったとおり、演奏した皆が、会場にいた方々が一つになったような気がしました。音を奏でて人々に届ける。毎日当たり前のようにしていることが、こんなに多くの人々を笑顔にし、元気づけられるのだと知りました。

伊達市を元気づけたい、その想いで一生懸命取り組んできた演奏会でしたが、この演奏会で自分自身も元気づけられたと感じています。楽器を吹く楽しさはもちろん、人の優しさや人と関わる楽しさも知りました。練習会のはじめは、他校の人に話しかけるのも緊張しましたが、練習を重ねる内に仲良く話しながら練習できました。藝術大学の方も分からないところをとても丁寧に教えてくださいました。また、上級生や下級生との絆も深められたように思います。音楽は人を元気にするだけではなく、自分自身も元気になる、これからの私にとって貴重な学びになりました。そして、人々を幸せにする音楽がこれからも伊達市に響き渡り、伊達市の文化の一つとして根付いていってほしいと思います。